日本ヘーゲル学会
第37回 研究大会

会場　大阪大学会館・講堂（豊中キャンパス）

ヘーゲルとジジェク

その可能性の中心

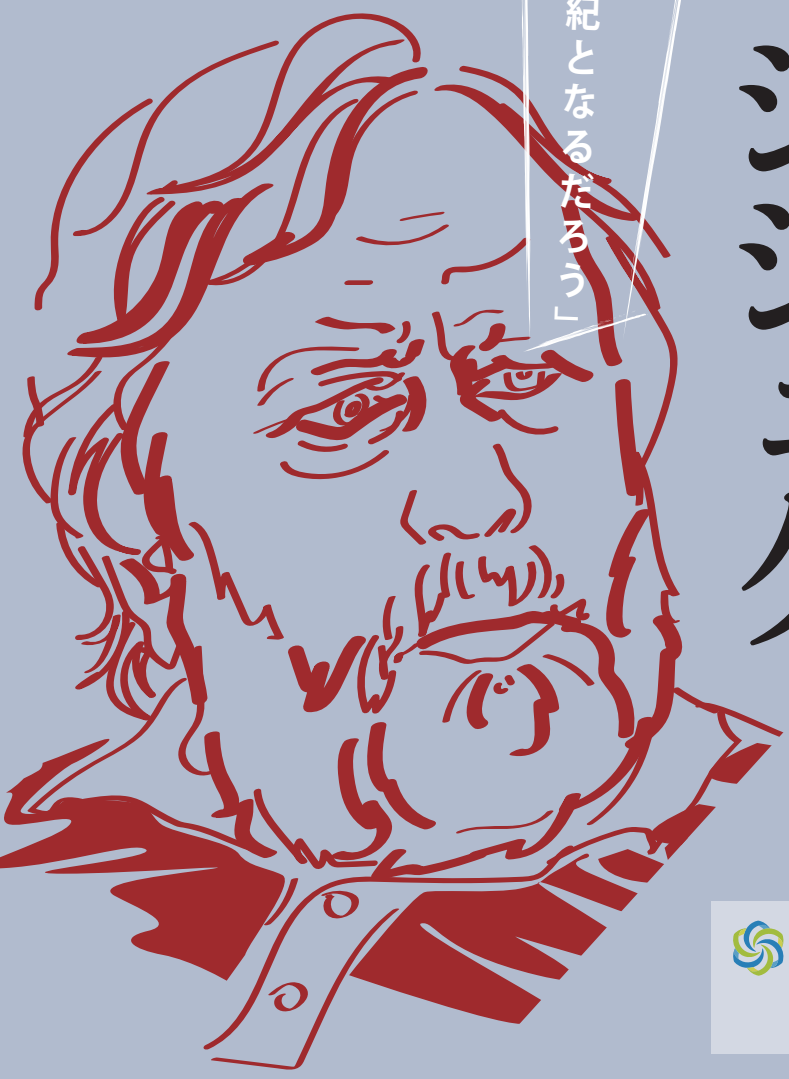
2026
6.20［土］→21［日］

◆ シンポジウム「ヘーゲルとジジェク」（20日）
（野尻英一・高橋一行・原和之・飯泉佑介・高橋若木）

◆ 特別講演：山内廣隆「哲学と戦争」（21日）

◆ 合 評 会：久冨峻介『ドイツ古典哲学と「学」の精神史：カントからヘーゲルへ』（21日）

21世紀は、ヘーゲルの世紀となるだろう」



参加申込

大会参加申込
（当日まで受付）

懇親会参加申込
（6月13日〆切）

大会参加チケット：会員は無料、非会員は一般 1000 円、学生 500 円
懇親会チケット：一般 4500 円、学生 3000 円

- 大会／懇親会の参加お申込とお支払いはPeatixサイトで承ります。QRコードリンク先よりお申込ください。
- 申込時Peatixのメンバー登録が必要となります（簡単なお手続きです）。
- 参加の方は会員／非会員に関わらずお申し込みください。料金は対面会場、オンラインで共通です。
- 懇親会は〆切後のキャンセル返金は承りかねます。

大阪大学大学院人間科学研究科 附属 未来共創センター
哲学の実験 OPEN・LAB
大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

シンポジウム「ヘーゲルとジジェク」は JSPS 科研費 23K25270 による研究成果の一部です。
（基盤研究 B「スラヴォイ・ジジェク思想基盤の解明：ヘーゲル、ラカン解釈を中心に」）

詳細・最新情報（日本ヘーゲル学会ホームページ）https://hegel.jp

日本ヘーゲル学会　第37回 研究大会

会　場　　大阪大学 豊中キャンパス 大阪大学会館・講堂　アクセス

※最新情報については、学会ホームページもあわせてご覧ください。

タイムスケジュール

2026 年 6 月 20 日【土】

● 10時30分〜11時10分　**個人研究発表（1）**

高畑 旦（日本大学）フランツ・フォン・バーダーのヘーゲル理解
— 特に絶対精神と世界精神をめぐって —

司 会：原田 哲史（関西学院大学）

● 11時15分〜11時55分　**個人研究発表（2）**

栗原 隆（新潟大学）ヘーゲルと近代の生理学

司 会：大河内 泰樹（京都大学）

○ 12時00分〜13時00分　**休憩**

● 13時00分〜13時45分　**総会**（会員）

● 13時45分〜13時55分　**研究奨励賞授与式**

● 14時00分〜17時00分　**シンポジウム**

ヘーゲルとジジェク — その可能性の中心 —

司 会 & オープニング・リマーク：野尻 英一（大阪大学）

提題1：高橋 一行（明治大学）ジジェクの主張はヘーゲル読解に資するか

提題2：飯泉 佑介（福岡大学）反復と弁証法
ジジェクのポスト／ヘーゲル論

提題3：原 和之（東京大学）ジジェクと『精神現象学』の裏面：「無意識の経験の学」としての「欲望の弁証法」

特定質問：高橋 若木（大正大学）

● 18時00分〜20時00分　**懇親会**

2026 年 6 月 21 日【日】

● 09時30分〜10時10分　**個人研究発表（3）**

客本 敦成（大阪大学）ヘーゲル哲学とラカン理論の差異
疎外・分離概念に注目して

司 会：池松 辰男（お茶の水女子大学）

● 10時15分〜10時55分　**個人研究発表（4）**

服部 悠（法政大学）：初期ヘーゲルとヘルダー
— ドイツ通俗哲学を背景として —

司 会：山脇 雅夫（同朋大学）

● 11時00分〜12時10分　**特別講演**

山内 廣隆（安田女子大学）：哲学と戦争

司 会：硲 智樹（広島大学）

○ 12時10分〜13時10分　**休憩**

● 13時10分〜16時10分　**合評会**

久冨 峻介『ドイツ古典哲学と「学」の精神史：カントからヘーゲルへ』（京都大学学術出版会、二〇二五年）

評 者：三重野 清顕（東洋大学）、山口 祐弘（東京理科大学）、久保 篤史（京都大学）

司 会：濱 良祐（同志社大学）

Symposium Overview

メイン・シンポジウムでは、スラヴォイ・ジジェクとヘーゲルとの関係を考察する。ジジェクは九〇年代以降、精力的な著述によって世界的に著名となったスロベニア出身の哲学者である。その思想の特徴は、ヘーゲル哲学とラカン派精神分析理論の組み合わせにある。ジジェクはヘーゲル主義者を名乗り、ヘーゲルにのっとった「唯物論的弁証法」を唱え、「キリスト教的無神論」を標榜する。フーコーがドゥルーズについて述べた言葉を置き換え、「いつの日か世紀はヘーゲルのものとなるだろう」と宣言し、二一世紀はヘーゲルの時代とまで主張する。ラディカル・ヘーゲリアンとも言うべき、ヘーゲルの擁護ぶりである。だがジジェクのヘーゲル理解は、「正しい」のだろうか。一方でジジェクによれば、ヘーゲルとラカンは「同じこと」を言っているのだという。従来、思想史的な系譜の理解において、またポストモダン的な思想地図に照らした位置づけにおいて、ヘーゲルとラカンとはジジェクの主張するほど重ね合わせて理解されてこなかった。ヘーゲルとラカンはどのように同じでどのように異なるのか。まずヘーゲル研究者が確かめなくてはならないのは、ジジェクにおけるヘーゲル理解の妥当性だろう。否定性、無限性、無限判断、概念の自己運動、自己無化する仲保者、表象の克服、こうしたヘーゲル哲学に固有の概念／理論をジジェクは、精神分析の概念／理論と重ね合わせ、映画など豊富な文化的素材を用いて解読する。叙述は体系だっておらず、繰り返しが多いとも言われるが、注意深く見ればヘーゲルのテキストの扱いにも経時変化が見られる。ヘーゲルとラカンの重ね合わせは、都合良く重なるところだけ取り出しているかもしれないから、検証にはヘーゲル研究者とラカン研究者が協力し合う必要も出てくる。本シンポジウムでは、科研費プロジェクトにおいて進みつつあるヘーゲル研究者とラカン研究者による共同研究の成果もふまえ、「ジジェクのヘーゲル理解とその可能性の中心」に切り込む。ジジェクにおけるヘーゲル像を明らかにするとともに、ジジェクを通したヘーゲルの可能性に迫る機会としたい。

登壇者
A list of speakers

野尻 英一（大阪大学）

高橋 一行（明治大学）

飯泉 佑介（福岡大学）

原 和之（東京大学）

高橋 若木（大正大学）